

診療科目 臨床検査部

プログラム責任者：住友 みどり

プログラムの特徴

横浜市立大学附属病院臨床検査研修プログラムの目的と使命は以下の5点にまとめられます。

- 1) 専攻医が臨床検査に関する知識、技能を習得すること
- 2) 専攻医が臨床検査を通して診療に貢献すること
- 3) 専攻医が臨床検査の研究法を習得すること
- 4) 専攻医が医師として適切な態度と高い倫理性を備えることにより、患者・メディカルスタッフに信頼され、プロフェッショナルとしての誇りを持つこと
- 5) 臨床検査専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること

プログラムの概要（修得項目）

【1年目】	臨床検査の必須7科目(臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝関連検査学、臨床生理学)を習得。
【2年目】	サブスペシャリティに従事し、1年目後期研修医の指導も併せて行う
【3年目】	サブスペシャリティを中心に。保管すべき領域に関しては再履修。管理学、検査情報学についても習得。

到達目標

研修修了が認定されると、専門医認定試験の受験資格が与えられる。この試験に合格して臨床検査専門医となることが本プログラムの到達目標である。臨床検査専門医にはさらに経験を積み、大規模中規模施設の臨床検査部門を管理・運営すること、指導医となって臨床検査専門医を育成すること、教育研究機関において臨床検査医学の教育研究を担うことが期待される。

修了後に取得可能となるサブスペシャリティ領域

臨床検査専門医

主な協力病院

プログラムのすべてが横浜市立大学附属病院で習得可能。

附属病院

准教授 山崎 悦子 (臨床検査部長)
 講師 桐越 博之
 助教 住友 みどり、白石 洋子、荒川 健太郎

附属市民総合医療センター

教授 宮島 栄治 (臨床検査部長、臨床検査医学教授)
 准教授 海老名 俊明
 助教 高橋 成典

診療科の実績

附属病院実績

検体検査： 一般検査 224,789件、血液学検査 684,333件、生化学・免疫学検査 4,065,559件、微生物検査 51,277件
 生理機能検査：心電図・循環器系 25,744件、呼吸機能 2,819件、脳波・筋電図 1,758件、超音波 13,664件
 外来採血患者数：133,817件

指導医から一言

附属病院臨床検査部は国際基準であるISO15189認定を取得しており、質の高い国際治験にも対応できる検査部です。中央部門であるが故に各診療科にとらわれず横断的な研究が専門家である検査技師とともに出来ることは、臨床検査部の大きな強みです。私自身は血液内科専門医/指導医ですが、そのような内科的疾患のバイオマーカー関連の研究のみならず、生理学的検査や感染管理学の習得など多方面にわたる目標をもって研修できる点も検査部の良い点です。(附属病院 臨床検査部長 山崎悦子)

シニアレジデントからのメッセージ

現在在籍者なし

診療科のホームページURL

<http://www.yokohama-cu.ac.jp/urahp/section/exam/index.html>

担当者・連絡先

山崎 悦子
 etsukoy@yokohama-cu.ac.jp